

平成28年度全国学力 学習状況調査の結果

平成28年4月19日(火)に6年生を対象に実施した、学力調査の結果(概要)をお知らせします。



Q. この調査の目的は何ですか？

A. 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各領域における児童の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることです。

<ご注意>本調査により測定できるのは、学力の一部であり、すべての学力がわかるわけではありません。

Q. この調査はどのような内容ですか？

A. 調査は教科に関する調査と、生活環境や学習環境に関する調査とに、二分されます。そのうち、教科に関する調査は、さらにAの**基礎知識**(身につけておかなければ後の学習に影響を及ぼす内容)と、Bの**活用**(実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容)との調査に分けられます。また生活習慣や学習環境に関する調査では、学習意欲や、学習環境、生活の諸側面に関する調査となっています。



Q. 栄小学校の教科全体の調査結果はどうでしたか？

A. グラフで算数や国語の調査結果を表すと、次頁のようになります。青実線が栄小学校の平均正答率、黒実線が全国の平均正答率、そして赤点線が北海道の平均正答率です。以下、グラフから読み取れる結果を紹介します。

■教科について

<国語A(基礎知識)>

- ・観点では「伝統的な言語文化と国語の特質に関することがら」が全国平均正答率を大きく上回っている。また「話すこと・聞くこと・読むこと」は、ほぼ全道平均正答率と同じになっている。
- ・観点の「書くこと」は、北海道の平均正答率を下回っており、今後の課題である。

<国語B(活用)>

- ・観点の「話すこと・聞くこと」や「読むこと」は、全道の平均正答率に近い。
- ・「書くこと」が課題である。

<算数A(基礎知識)>

- ・観点の「数と計算」「量と測定」は、全国の平均正答率に近い。「図形」と「数量関係」が全道の平均正答率を下回っている。

<算数B(活用)>

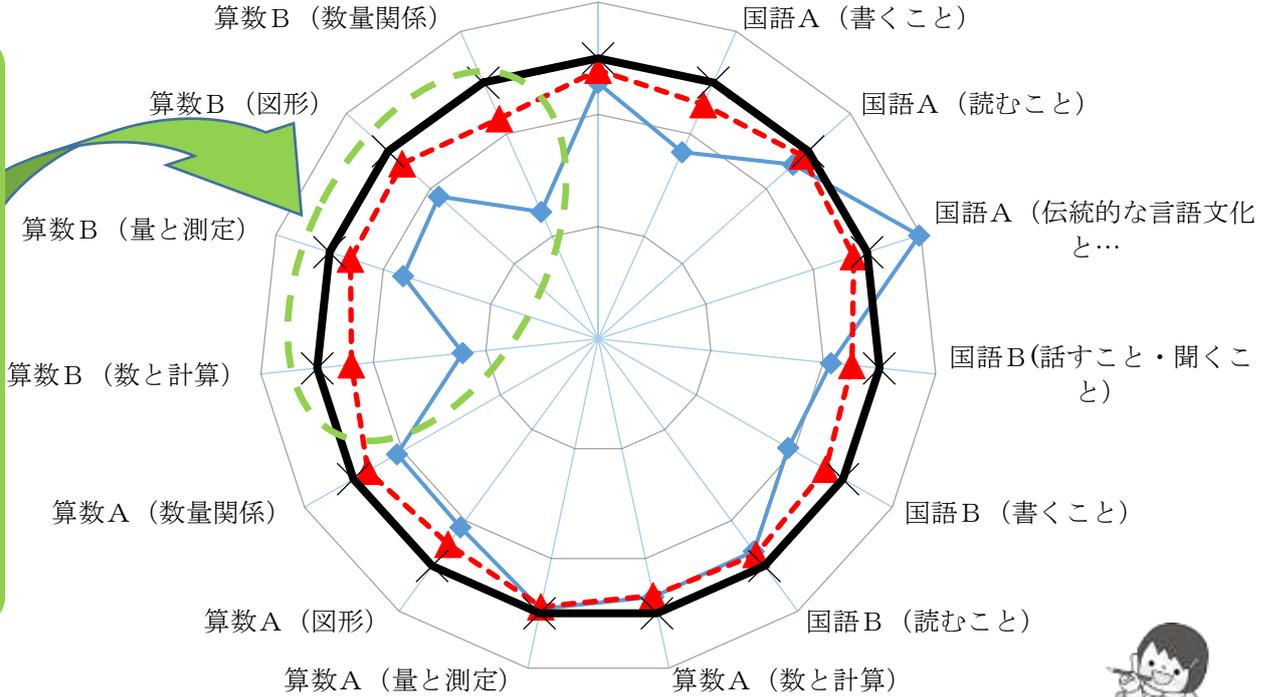
- ・すべての観点で、北海道の平均正答率を下回っている。特に「数と計算」と「数量関係」については、大きく下回っており、今後の課題である。

平成28年度 全国学力学習状況調査結果
(全国平均を100とした時の比較)

- ◆ 帯広市立栄小学校
- ▲ 北海道 (公立)
- × 全国 (公立)

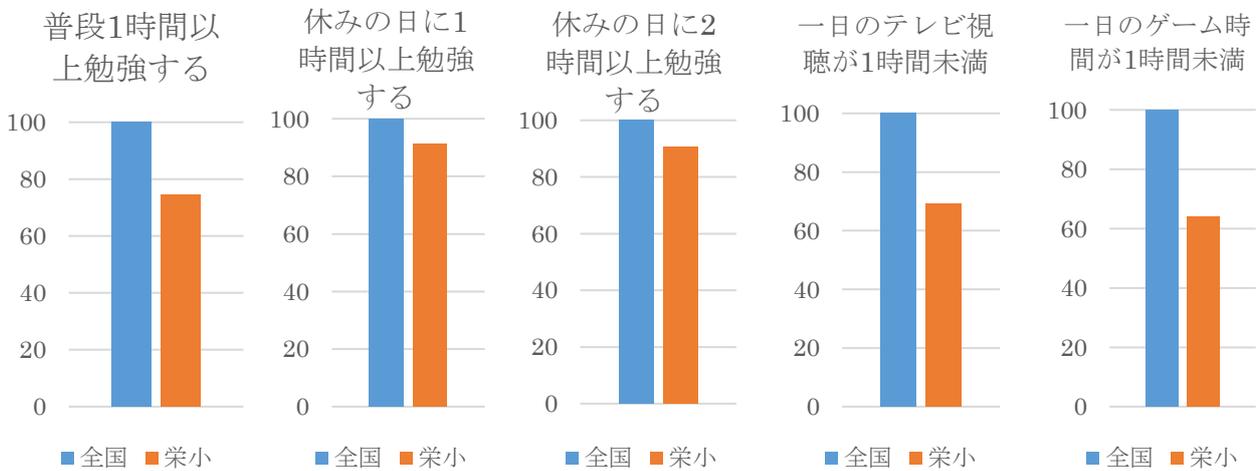
国語A (話すこと・聞くこと)

緑の点線部分が…
本校の大きな課題です



Q. 栄小学校の生活習慣や学習環境に関する調査結果はどうでしたか？

A. 学習意欲や学習環境の諸側面に関する調査の結果を全国の平均を100としたグラフに表すと、栄小学校では、以下の様な傾向が見られました。



各ご家庭で、生活リズムチェックシートなどで意識して取り組んでいただいている、勉強時間を増やす取組やテレビやゲームの時間を減らす取組ですが、まだ全国平均を下回っており、引き続き今後の課題であることが分かります。

Q. 今後に向けてどうしたらよいですか？

A. 学力を向上させるためには、学校・家庭・地域が連携し、みんなの力で見守り育てていく必要があります。ご理解とご協力をお願いします。

学校では…基礎・基本の更なる定着と、「書くこと」について意識した学習に重点的に取り組む(学習常規の定着、朝学習の工夫 等)。
家庭では…家庭学習の時間の確保ならびに、テレビやゲームの時間を減らす取組を行いながら、家庭学習に対する取組の支援を行う(「家庭学習のしおり」「生活リズムチェックシート」等の活用)。
地域では…夏冬の勉強会や放課後の居場所づくり事業等で学習をサポートする。